辰馬さんと私

金　森　誠　之*

辰馬さんのお通夜の晩は，世話になつた，今は重役であり局長であり，大物になつてゐる人々が集まつて，若かりし日，辰馬さんに育てられた，想ひ出話に花を咲かせたのであつたが，

「辰馬さんに，怒られた人はゐるかね」

と誰かが云ひ出したが，大勢の人で，長い長い月日の間に，誰もが，辰馬さんにしかられた人がなかつた。

「金森さんは，およそ役人としては，すき勝手に，やつて来られたのだから，一度位はしかられたらう」

と尋ねられたが，どう考へて見ても，しかられた記憶がない。

辰馬さんは，自分で先に立つて，範を示して行かれ，私達はそれに自然について行つたのであつた。

「何時に出勤しろ」とは命ぜられなかつた。私は，今日で云ふ，サイクリングに，毎朝辰馬さんに連れられて，多摩川の堤防を，川面を伝つて来るさわやかな風に吹かれながら，川崎駅から，自転車を，多摩川改修事務所へ走らすのであつた。大森駅へ八時と云ふ，辰馬さんとの楽しい落ち合ひは，けだし「毎日八時半前への出勤」と云ふ結果になつた。

この様に万事，何とはなしに，辰馬さんの命令に，楽しく，ついて行けた。

○

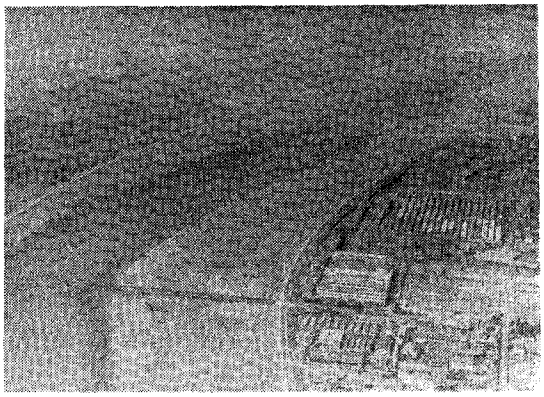
辰馬さんの技術上の指導は，数限りはないが，技術者としての，又役人としての考への持ち方「技術者人格」とでも申しますか，私は，いや私達は，すつかり育て上げられた。——範を示して——例へば——

私は多摩川で，圦通の設計を命ぜられた。私は利根川での経験から，「10-15 丁歩に付，1 平方尺」と云ふ割合に，其の断面をきめようとした。辰馬さんは，

「多摩川沿岸は，今は水田でも，やがては街になるよ。又沿岸の人達は，利根川べりの人達のように，水につかつてゐるのに慣れてゐないから「3-5 丁歩に付，1 平方尺」に採りなさい」

と云はれた。それで私は「土木技術者は設計に当り，現状でなく，必ず将来を考慮しなければならぬ」と云ふ事と「土木工事を施すのに，役所側の考へでなく，住民側からの考へで，計画すべきである」と云ふ事を，「10-15」から，一飛びに「3-5」と云ふ思ひ切つた数に，楽々と教へられた。

ガス橋より多摩川上流を望む



右岸：新三菱重工，キャノンカメラ，日本製鋼など

それから 30 年，水田は街になつてゐる。そうして，多摩川への排水は，多くなり，速くを望む事情になつて来てゐるが，快く排水は行はれてゐる。沿岸の都市としては重大なるこの恩恵を，川崎市民，東京都民は，辰馬さんの御蔭であることを知らない。テレビの言葉でないが「私だけは知つてゐる」いや神様が知つてゐる。辰馬さんは天国で，今頃この事も，ほめられているかも知れない。

その頃の多摩川の沿岸は，低地であつた。雨が降ると水田に水がいく日もたまつてゐた。池沼も多かつた。

辰馬さんは，多摩川の余り土を捨てにかゝつた。

私は，外摩川勤務 10 年，多摩川改修費 500 万円のうち，200 万円を捨土でもうけた上，川崎市，大田区の池沼を無くし，現地をうめて立派な市街地たるべく，宅地化した。川崎市の広く深かつた池は，競輪場になつてゐる。堤外地にあつた，味の素，コロンビア等の工場は，昔こゝに，水が流れてゐたとは誰もが知らない。これは辰馬さんが導かれた儘について行つた結果であつて，皆さんが，今は繁栄の多摩川べりを歩いて，立ち並ぶ大ビルディングや大工場，などを見るとき，辰馬さんの拵えられた土地に立つてゐることを想ひ出して下さい。若し辰馬さんが土砂処分を深慮されなかつたら，この辺は，土は鶴見か池上の山から，運ばなければならないのであるから，又排水も利根川並みであつたらば，必ず，工場もなく，ビルディングもなく，池沼や，湿地の儘で残つてゐましよう。

○

辰馬さんは，技術者は，技術をみがかなければならな

* 正員　工博　金森総合土木研究所長

いのは勿論であるが，堅く，乾いてゐてはいけない，多彩でなくてはいけない，とこれ又，身を以て導かれた。

私は，辰馬さんに使はれる迄玉突を知らなかつた。辰馬さんにさそはれて，大森の玉突屋で，いつの間にやら，30 位つけるようになつた。

辰馬さんについて，青木君，蒲君，宮本君，などの面々を加へ，学士会の玉台を占領しての楽しかりし日の想ひ出は，今でも学士会の玄関へはいつて行くたびに，まぶたに浮んで来る。

謡曲と云ふのは，知つて居れば，非常に面白いが，学校を出て役人となつたころ，宴会があると，名井九介さんを頭に，先輩の謡曲が初まるのであつたが，知らない私にはとても聞かされるのはつらかつた。

多摩川の事務所の側にお寺があつた。そのお寺へ，辰馬さんは，自費で，謡曲の先生を連れて来られ，事務所の人達が，集まつて習つてゐた。

いつも一所に帰る習慣の私は，自然，お寺へもついて行つた。聴いて居る内に面白くなつて来た。時日は追々，多摩川の従務員家族の謡曲大会の舞台で，私は「紅葉狩り」の「シテ」をやれるようになつた。

今日，ラヂオで，謡曲をかけて，楽しく聴けるのは，考へて見れば，辰馬さんのおかげである。

辰馬さんは，部下の人達を交へて，楽しまれた。いや部下の人達でなく，家族まで交へて，楽しまれた。私達は，仕事をするにも，遊ぶにも，親身なグループとなつて，いつも楽しい日が送れた。

テニスも辰馬さんは，先にたつて皆んなを引きづつてくれた。だんだん強くなつて，付近の会社か，役所と仕合をして，勝つことが多かつた。

仕合の日は，辰馬さんの奥さんも，私達の家内も，小供も，出掛けて行つて，応援に行つた。楽しい日曜のピクニックであつた。

上官と，部下ではなかつた。大きな一家族の集りであつた。辰馬さんは，奥さんと一所になつて，うちの事も小供の事も，心配してくれ，よろこんでくれた。

多摩川会と云ふのがある。辰馬さんの下に居た人々の奥さん達の会で，何年も，何年もの前から，毎月一回欠かさず集つてゐる楽しい会らしい。年に数回亭主もまじり込んで，芸くらべをやつたり，福引きをしたり，ラヂオの「危険信号」や「ヂュスチュアー」などをやつて，まるで小供に帰る。

マーヂャン会などは，度々あつた。碁は辰馬さんは強かつた。とられなかつたが素人の有段者の腕があつた。私の碁の一応やれるのは，辰馬さんの導きである。

○

辰馬さんは，何事にも，熱心に，夢中になられる人であつた。東京土木出張所時代に，利根川改訂計画を立てられたときなど，文字通り寝食を忘れてやられた。

私共は，利根川を区分けにして，調査計画を受け持たされた。幾月かは，所長室の電灯は，9時～10 時までもともつて居た。

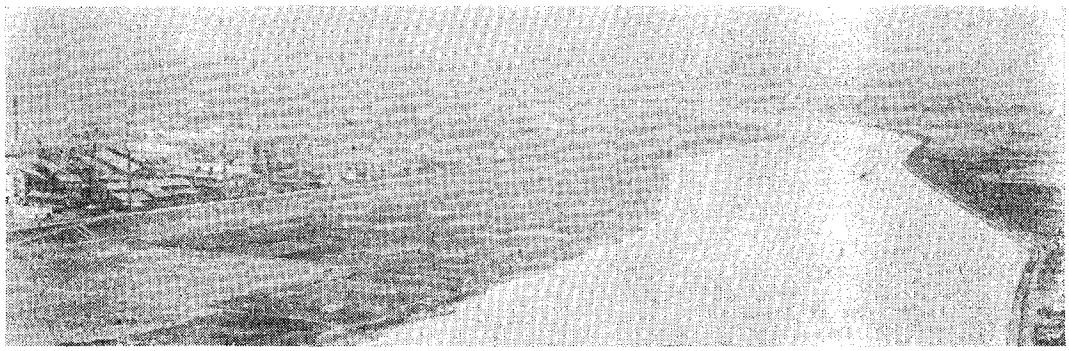
出来上つた私達の計画は一応手を下され，更に元利根川改修工事に従事された，先輩の人達に集まつて貰つて討議された。

辰馬さんは，おとなしい人であるが，その時大先輩の真田さんとされた，きびしい討論は「強い人だ」と云ふ感じを染々と味はつた。

今日行はれてゐる，利根川の工事は，この計画の根幹をなしてゐる。辰馬さんの熱意は，工事を通じて永遠に生きるものである。

○

辰馬さんの言行を書き連ねれば，一つの技術者の歩むべき指針となりましよう。筆を運べば果てしがないが，私としてのなぐさめは，辰馬さんは，多摩川改修工事に，利根川改訂工事に，永遠に生きられ，又残されたる私達に，その霊は生きてゐることであることを記して，筆を結ぶことにする。

【原文のまま掲載しました】

工場群の立並ぶ最近の多摩川流域